



祐介の目

No.173

大田祐介 (福山市議会議員)

自転車道の整備

車道の路側帯に青いラインを入れる自転車道の整備工事が十年以上前から市内で続いている。自転車は軽車両であり、本来車道を走るのが正しい。自転車通勤の普及により渋滞緩和や健康増進も期待できるし、ヘルメット着用努力義務と併せて安全性も高まるものと期待している。

しかし、整備された自転車道を観察すると、歩道との境に必ず2cm程度の段差が設けられている。これは国土交通省の指示だが、自転車に限らずベビーカー、シルバーカー、車椅子等すべての車輪付きの乗り物が車道を横断する際に支障となる。私は自転車道整備が始まった当初からこの段差の危険性を指摘してきた。なぜなら私も転倒の経験があり、特に自転車道から歩道に乗り上げる際に危ない。

先日、母校の広大附属の近隣に住む方より連絡があり、自宅前で自転車通学の中学生

が何人も転倒して怪我をしているという。現地を確認すると4cm強の段差があり、早急に改善するよう担当課に指示した。ついでに整備済みの自転車道においても同様の事故がないか、教育委員会と連携して市内中学生に聞き取り調査をするよう求めた。事故を教訓にバリアフリーな自転車道整備が進むことだろう。

さて、尾道市はしまなみ海道の効果もあり、自転車のまちとして定着している。対して福山駅、鞆の浦経由でしまなみ海道に接続する「しおまち海道」サイクリングロードも魅力的だ。福山駅でのぞみから乗り換え尾道に向かうサイクリストが福山駅出発となるよう誘導したい。駅前のレンタサイクルにスポーツタイプを加え、輪行者の自転車組立場も地上に移設するべきだ。私は電動アシスト自転車を愛用しているが、通常の自転車より行動半径が広がる。特に登坂性能が素晴らしく、3輪タイプもあり運転免許を返納した高齢者にもお勧めだ。今年度福山市はバス停近くの商業施設の駐輪場を活用してサイクル&バスライドに取り組む。様々な策で自転車のまち福山を実現したいものだ。